

ふたかみ NEWS プチトマト

トピックス
古着市開催
詳細4面



ハピバーでは、季節に合わせた陶器商品を作っています。今回は、「ひな人形」を作りました。なかまと職員でアイデアを出しながら楽しく作ることができました。色とりどりの衣装、おひな様の表情などお楽しみ下さい。ぜひ、ハピバーカフェへのご来店をお待ちしております。(村松)

社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者: 石本悦二 編集責任者: 関口奈緒美



内田美優さん



守谷開地さん

山田脩さん



泊萌依さん

はびきの園で1月29日に20歳の集いが行われました。4名のなかまが20歳を迎えられ大人への一歩を踏み出しました。作業着とは違った正装で、少し緊張されるなかまの姿も見られましたが、園全体でお祝いすることができました。所属の班からは色紙と記念品を贈呈され、ご家族からは手紙を頂きました！改めて、4名のなかまの皆さま成人おめでとうございます！これからも仕事や楽しい活動を皆で取り組んでいきましょうね！（森本あ）

ふたかみ福祉会後援会主催

春の古着市

全品 100円

3/7(土) 10:00~13:00

翠鳥園横空き地(イズミヤ古市店横)

売り物: 古着、靴、かばん

今回は回収を行いませんのでご了承ください

※雨天中止

子ども服も
あります!

【お問い合わせ】〒583-0841 羽曳野市駒ヶ谷 105-1【法人事務局】ふたかみ福祉会

TEL (072) 959-3221 FAX (072) 957-2215

■後援会入会及び更新の方々(敬称略)

2026年1月

* 田中美希/杉山弥生/渡辺博子...5口

* 東侑右...2口

* 鎌田哲平/鎌田順子/森本尚子/荒田貴美子...1口

■ ボランティア... 垣内秀夫 様

■ アルミ缶回収(1月分) ... 576 kg

ありがとうございます

◆2025年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費: 1口2,000円 団体会費: 1口10,000円】郵便振替口座: 00940-5-325894

個人会費については6月の総会で、2025年度からの会費の改定をしています。



障害があっても安心して生活できる社会に

第49次 豊よきれん 国会議員署名・募金運動 全国キャンペーン 2025・12月 - 2026・4月

障害者権利条約を地域のすみずみに

障害のある人たちの生活を支える制度づくりのための署名・募金にご協力ください

わたしたちも応援しています

ホームページはこちら <http://www.tyosokiren.or.jp>

cafeハピバー

3月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 14日(土)・20日(金・祝) 21日(土)

★Instagram★ [cafe-hapibar.com](https://www.instagram.com/cafe-hapibar.com)

お問い合わせ先】072-958-3232

きょうされん経営管理者総合研修会

「人権を学びなおす」に参加してきました。

まずは、包括的性教育は自身自身を大切に、相手や仲間を尊重する関係を創っていくために必要なことで、その結果平和なお互いを尊重できる社会につながっていくのお話でした。障害者権利条約の国連権利委員会の総括所見でも日本はパターンリズムと人権軽視が指摘されています。まずは、一人ひとりが自分のからだを大事にする教育から見直していく必要があるのだと感じました。

次に障害者自立支援法違憲訴訟、いのちのとりで裁判、優生保護法被害裁判、それぞれからおかしいことには立ち向かっていくことの大切さが共通して語られました。

続いて来年50周年を迎えるきょうされん。第一世代のなにもないところから作業所をつくってきた経過のお話、第二第三世代からは実践を突き詰めていくと社会（制度）にあたる、だから運動が大切という言葉、当初は職場のなんでもする幅の広さに憤慨していたが、実際に自身が支援をしていく中で障害の

ある人のおかれてる現状への疑問が声を上げていく（運動）へと変わっていったと話されて

いました。どの時代であっても目の前にいる障害のある人たちへの支援に真摯に向き合えば、おのずと運動へとつながることは変わりありません。ゼロから作り上げていった先人たちの敬意、そこからバトンを受け取り、また次へとつなげていくことも大切な役割だと思えます。

障害分野に限らず、人権を保障していくためにはいつの時代にも声を上げ続けていくことが必要だと改めて感じました。つつい日常の忙しさから流されてしまいかねない日々の中ではありますが、疑問を感じ取る力をもち、その疑問を解いていくために社会に対して疑問を投げかけていける支援者でありたいと思います。

(西岡)



「指導か？ハラスメントか？」ハラスメント研修で学んだ境界線

1月27日、法人の管理者・主任を対象に、顧問社会保険労務士の吉川徹氏を講師としてお迎えし、ハラスメント研修を実施しました。

まず、ハラスメントの4つの類型（パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、妊娠・出産・育児介護休業等ハラスメント、カスターハラスメント）について学びました。特にカスターハラスメントについては、2026年10月より企業による防止対策が法的に義務化されることがアナウンスされ、今後の法人としての対応方針策定や、職員がそうした場面に遭遇した際の具体的な対処法を検討していく必要性が共有されました。

「業務指導」と「ハラスメント」の境界線が悩ましい事例が多い中で、今回のポイントとして「人格ではなく事柄に焦点を当て」「適切な注意を通じてハラスメントを未然に防ぐ」こと、そしてアンガーマネジメントの重要性を深く学びました。業務上のミスに対して人格を責めるのではな

く、具体的な改善策を示す指導が効果的である点も印象的でした。

講義後半では、実際のハラスメントの事例を題材としたグループワークを実施しました。それぞれの事例について「どこが問題なのか」「どう対応すればよいか」意見を出し合い、法人や管理者として果たすべき安全配慮義務の重要性、問題発生時の記録保存（証拠としての機能）、相談窓口の整備など、日常的に心がけるべき点や整備すべき体制についても理解を深めました。

近年、ダイバーシティ社会の進展に伴い、SQD（ハラスメントや、文化・ジェンダー・障害に関する新たな摩擦も懸念されます。今回の研修を通して、日ごろの現場経験を振り返る機会でもありました。継続的な研修の実施や日々のコミュニケーションを大切に、職員一人ひとりの信頼関係を築くことがハラスメントの防止の基盤であると感じました。(竹田)

「福祉現場の防災を考えるBCP研修」

羽曳野市作業所施設連絡協議会主催

1月9日に兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の青田良介教授によるBCP研修の講義を受けました。はじめに、BCP計画とは？についてですが、BCP計画とは、災害、事故、感染症などの緊急事態が起きても、事業を止めない。できるだけ早く再開するための計画のことです。福祉サービスを提供する施設では、2024年4月1日からBCP計画の策定が完全義務化になり、未策定の場合は報酬の減算対象となりました。ふたかみ福祉会では、それぞれの事業所でBCP計画の策定を行っています。

講義の中で、「防災に関心が低い」という言葉がありました。なぜそのようなことかと言うと、「減多に出来ない。リアル感がない。なぜか自分だけは大丈夫」と思いがちであること。若い世代は、阪神淡路大震災のような大きな災害の経験がない。しかし、実際に災害が起こると大変な目に遭い、「あの時こうやっていれば」と後悔が残ります。

災害を完全に防ぐのは難しいですが、食料、水、衛生用品の備蓄をしたり、避難計画、BCP策定、職員の役割分担、耐震化の見直しをすることで「減災」をすることはできます。もし、災害が起こった場合に職員が始めにする行動は、「なかまの安否確認」です。また、すぐに行動できるようなあらかじめ優先順位を決めておくことが大切となります。対応拠点は自事業所が望ましく、理由としては使い慣れておりなかも安心するからである。自事業所が使えない場合は同一事業所内、もしくは近隣の施設も検討する。他の施設を利用する場合は、利用者カードをばら下げることでその人の情報が分かる他の職員でも対応がしやすくなります。施設だけで抱え込まないよう地域と連携しお互いに助けあうことが大切です。災害はいつ起こるか分かりません。引き続き防災、減災対策に取り組んでいきましょう！（阪本）

避難訓練



1月16日（金）に西浦小学校と合同で避難訓練を行いました。緊急地震速報の音が聞こえて頭を守り、少し揺れが落ち着いたら避難を始め、隣の西浦小学校に避難しました。音に驚き動揺する姿も見られ、座り込む仲間や泣く仲間も居ましたが、危機意識を持ちながら本番を見据えた訓練を行うことが出来ました。

今年「阪神淡路大震災」から31年、「東日本大震災」から15年、「能登半島地震」から2年が経ちました。南海トラフも30年以内に発生すると言われておりいつ地震が起きてもおかしくない状況です。普段から防災意識を持ち、いざという時の準備をこれからも進めていきたいと思います。(波多江ひ)

1月16日藤井寺支援学校の保護者バザーで一緒に盛り上げてほしいと出店依頼があり、12テーブルの出店者が並びました。はびきの園とハピパールで参加してきました。はびきの園は製菓班のクッキーやケーキ、ハピパールは陶器の販売をしました。販売の準備中からご購入いただき、いちじくケーキは美味しいと聞いて買いに来たと言われて、始めの30分で売り切れました。後片づけ中もまだまだ売れて、うれしい悲鳴でした。お店番の仲間たちはお客様にさわやかな笑顔で対応、カメラを向けるとポーズをバッチリ決めてくれました！たくさんお買い上げいただき、ありがとうございました。(横山)

藤井寺支援学校バザー

